

平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		02 04 05	中期総合計画主要施策番号		3-04,3-05,5-10		担当課	部・課	企画部交通政策課	
事業名		鉄道近代化設備整備費補助事業				内線		3739		
						E-mail		kotsu@pref.nagano.jp		
事業の概要等	事業の目的	鉄道事業者の経営収支改善や保安度の向上を促進し、定時で安全な輸送の確保、サービスの向上を図り、県内鉄道を維持する。								
	事業の必要性	【現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)】 ・鉄道は地域住民の重要な公共交通機関として、安全性の確保や利便性の向上が求められているが、鉄道事業者の経営が厳しいことから、老朽施設の自主的な整備が進展しない。 【原因分析(ギャップが発生している原因は何か)】 ・鉄道利用者の減少により、鉄道事業者の経営は大変厳しい状況にあり、設備整備の負担が大きい。 【課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)】 ・鉄道施設・設備の整備を支援することによって負担を軽減し、その経営収支改善と安全性や利便性を向上させ、公共交通機関である鉄道を維持存続させる。								
		・鉄道事業者が実施する近代化設備整備事業に対する補助 (補助対象路線:前事業年度において経常損失を生じている路線) (補助対象設備:保安度の向上、経費節減のための設備) (補助率:県1/10(1/6、2/10)、国2/10(2/6、4/10)、市町村1/10(1/6、2/10))								
		実施期間	S53 ~		根拠法令等	鉄道近代化設備整備費補助金交付要綱				
	成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況		評価	
地方鉄道の設備整備を行うことにより、鉄道事業者の経営収支改善や保安度の向上を促進し、定時で安全な輸送の確保、サービスの向上を図り、県内鉄道を維持存続する。(鉄道の営業キロ数: H24 774.6km)		鉄道事業者の経営収支改善や保安度の向上のための設備整備を支援し、鉄道の維持存続を図る。			重軌条交換、車両更新等、10箇所に行たる施設整備に対し支援を行った。その結果、路線の維持存続が図られている。		a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下			
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要			
	最終予算額 (A)		千円	32,493	22,813	15,508	国庫・県単 県単			
	決 算 額 (B)		千円	32,472	22,343		実施方法 補助			
	B(H21はA)のうち一般財源		千円	32,472	22,343	15,508	歳出節別内訳等			
	概 算 人件費	従事する職員数	人	0.20	0.20	0.20	補助金:22,343 (単位: 千円)			
	概算人件費 (C)		千円	1,428	1,430	1,430				
概算事業費 (B(H21はA) + C)		千円	33,900	23,773	16,938					
事業実績	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績			
	近代化設備整備箇所数		箇所	25	10	9				
	補助実施鉄道事業者		者	3	1	2				
事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明							
	事業のニーズの変化		増加	横ばい	減少	判 定 の 説 明	・公共交通としての鉄道には、安全性の確保や利便性の向上は従来から求められている。 ・鉄道は地域住民にとって重要な公共交通機関であり、鉄道事業者の経営収支改善や保安度向上を促進するために、国、県、沿線市町村が協調しながら支援することが必要である。			
	県の関与を見直す余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	有効性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	効率性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	課題の総括		・公共交通機関である鉄道を維持存続させるため、鉄道事業者の経営収支改善や保安度の向上を促進するための設備整備に対し、国や沿線市町村と協調しながら支援することが必要である。							